



全体会

10/11(木)

新城文化会館 大ホール

開会宣言

横山 光明 (愛知県過疎地域振興協議会会長)

主催者挨拶

武居 丈二 (総務省大臣官房地域力創造審議官)

歓迎挨拶

大村 秀章 (愛知県知事)



主催者挨拶

総務省大臣官房
地域力創造審議官

武居 丈二
たけい たけじ



皆さんこんにちは。ただいまご紹介をいただきました総務省大臣官房地域力創造審議官の武居でございます。本日は全国過疎問題シンポジウムということで、大村知事、それから穂積市長、愛知県内の首長をはじめ関係者の皆さんに大変お世話になりまして、このように盛会のうちにシンポジウムが開催できますことを大変嬉しく思っております。総務大臣から主催者挨拶を預かってまいりましたので、私の方から読み上げさせていただきます。

全国過疎問題シンポジウム2012 in あいちを開催するに当たり、主催者を代表して一言御挨拶を申し上げます。

本日お集まりいただいた皆様方には、日頃から過疎対策について格別の御尽力、御高配を賜り、心から御礼申し上げます。

皆様ご承知のとおり過疎法につきましては、東日本大震災の発生による過疎対策事業の遅延が想定されることから、本年6月、平成33年3月31日まで5年間延長する改正法が成立し、公布・施行されたところであります。過疎地域は様々な課題を抱えていますが、長期的展望に立って着実な取組がされることを期待しております。

さて、今年度の全国過疎問題シンポジウムは「過疎地域とともに歩む～外からのサポートと内なる価値～」をテーマとして開催させていただくものです。

過疎地域の内なる価値としては、例えば東栄町で700年以上も継承されている「花祭り」に代表される伝統芸能があります。さらに過疎地域においては農地の管理や森林保全を通して自然環境を守り、水源の涵養、下流域における土砂防止等に大きな公益的役割を果たしてきております。

このような過疎地域本来の価値を守り、活かしていくためには、それを次世代に受け継ぐ人材を育成するための取組や多様な連携・交流を展開するための外部人材によるサポートなどの視点が必要になってくると考えております。外部人材の支援制度として、総務省では「地域おこし協力隊」や「集落支援員」の制度により支援を行っているところであり、今後更に充実してまいりたいと考えております。

また集落対策につきましては、過疎地域において高齢者割合が5割を超える集落が、全国で1万集落を超え、集落単独では日常の交通の確保や買い物、医療など日常生活にも影響が出てきているところであります。そうした活動を継続的に維持していくためには、住民団体やNPO等の担い手の確保が重要になってまいります。

このような状況を踏まえ、来年度の予算要求では集落を維持・活性化するため、複数の集落が連携し、大学などの外部の主体との協力による事業を提案しているところであります。

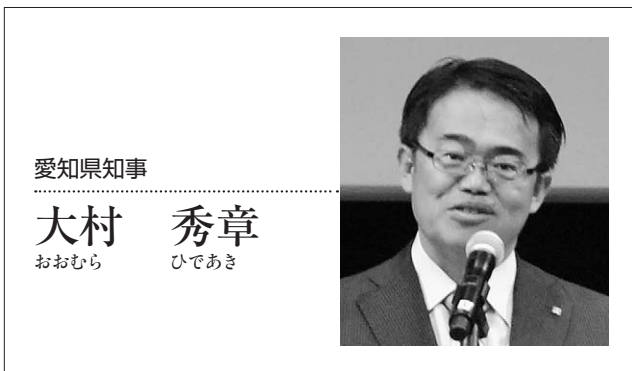
新たな時代に対応した過疎地域の自立・活性化を推進していくため、シンポジウムの講演や討議等を通じて有益な示唆が得られるものと確信しておりますので、参加者の皆様には、是非とも活発な御議論を賜りませう、心からお願い申し上げます。

最後になりますが、開催に当たりまして多大なる御高配を賜りました地元愛知県及び愛知県過疎地域振興協議会をはじめとする関係者の皆様方に改めて御礼を申し上げますとともに、お集まりの皆様方の益々の御健勝、御活躍をお祈り申し上げ、私の挨拶といたします。

平成24年10月11日 総務大臣 樽床伸二 代読。



歓迎挨拶



愛知県知事

大村 秀章
おおむら ひであき

改めまして、皆さんこんにちは。愛知県知事の大村秀章でございます。

全国過疎問題シンポジウム2012 in あいちの開催にあたり、県内外から遠路ここ愛知県に、このように大勢の皆様にお集まりいただきまして心から歓迎をいたします。また皆様方におかれましては過疎地域の振興のために日々ご尽力を賜りまして、厚く、厚く御礼申し上げる次第でございます。

さて、私ども愛知は、改めて申し上げるまでもなく、人口は742万を数えます。

また、県内総生産、県別GDPでは東京、大阪に次いで3位。ほぼ大阪と並んでおります。特に製造業、工業の製造業出荷額は34年連続第1位ということで、直近の平成22年度では38兆円を優に超えておりまして、第2位の神奈川が17兆円、第3位の静岡、大阪が15兆円ですから、2.5倍以上の工場出荷額がございます。まさに産業集積という意味では、日本一を誇る地域でございます。

そういうところで過疎問題ということが、どう結びつくのかと言われる方もございますが、一方で、そういった地域と併せまして、平成の合併前には島嶼部を除いて全国一の小さな村と言われました旧富山村、人口200人という村でしたが、この富山村を始め11の町や村が、合併後の現在でも、今回のシンポジウムの会場となっております5つの市町村が、過疎地域の指定を受けており、都市部と、まさに、工場集積部と併せまして、大農業地帯の農村部と、そして、こうした山間の過疎地域と、いろんな側面を併せ持った地域でございます。

この過疎地域を含みます三河山間地域は、県土の三分の一を占め、災害の防止、水源の涵養など、県全体を支える重要な役割を果たしており、全国の過疎地域、山村地域と同様に少子高齢化や若年層の流出による人口減少、主要産業である農林業の停滞など、厳しい状況におかれています。

そうした中で、愛知県では、山村振興に向けた基本方針となる「あいち山村振興ビジョン」を平成21年3月に策定いたしまして、安心して暮らし続けられる地域づくりや個性豊かな魅力が誇れる地域づくりに向けて、全庁をあげて、積極的な取組の推進を図っているところでございます。

具体的には、集落のリーダーとなる人材の育成や地域づくりアドバイザーの派遣、愛知県交流居住センターを設置いたしまして、山間地域の移住を希望される方を対象に空き家の紹介を行うなど、県と市町村、そして民間企業、大学が共同いたしまして、地域の活性化に向けた様々な事業の展開をしているところでございます。

さらに、今年度は新たな取組といたしまして、「あいちの山里で暮らそう 80日間チャレンジ」という事業を実施しております。この事業は、普段、都会で暮らす5人の女性スタッフが、山里に移り住みまして、地元とは違った観点から地域の宝や魅力を発見し、情報発信を行っていただくものでございます。また、地元の方と一体となって、婚活の企画や伝統芸能の維持、地域の活性化企画の提案を行うことによりまして、山間地域への一層の定住促進につなげることを狙いといたしており、まさに、今回のシンポジウムのテーマである、「外からのサポート」の一手法と言えると考えております。

あちらに、5人が揃っておりますが、愛知県には離島が3つあり、昨年は、その離島に三人の女性スタッフを派遣するという事業を80日間実施しまして、非常に評判が良かったものですから、柳の下の二匹目のドジョウを狙いまして、今度は山だということで、このシンポジウムの会場となります、5つの市町村、豊田市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村にそれぞれ、5人のスタッフを配置いたしました。これから年末まで、そこに住んでもらって、その地域の、まさに息遣いを、日々の発見を、アピールしていただこうと。そして観光だけではなく、定住にも結び付けたいということで取り組んでおりまして、大いに成果が上がることを期待したいと思っております。

さらに、この他にも、公益的機能を有する森や緑を県民全体で、将来に引き継いでいこうということで、平成21年度から、県民一人あたりに500円のご負担をいただく「あいち森と緑づくり税」を導入いたしまして、森林、里山林、都市の緑を整備保全するための様々な取組を進めております。これはソフト、ハードともに取り

組んでおりまして、毎年20数億の事業枠でございますが、これも、地元の雇用を生み、地域の活性化に繋がっていくことを、期待したいと思っております。

愛知県では、今後とも、三河山間地域の振興を県政の最重要課題の一つと位置付けまして、市町村をはじめ、企業や大学など一体となって、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

今日も、澤田副議長、そして倉知先生はじめ、県議会の多くの先生方もおみえでございますし、市町村長さんも、たくさんお越しいただいております。ぜひ、愛知の総力をあげて、この山間地域の活性化に取り組んでいきたいと思っております。

最後に、今回のシンポジウムが、今後の地域再生に向けたヒントとなるとともに、参加者の皆様方の交流を通しまして、新たな連携が生まれることを、ご祈念を申し上げます。

シンポジウムの後、今日は交流会があるそうでございますが、残念ながら公務がありますので、ご挨拶及

びこの式典で失礼をさせていただきますが、どうか実りの多いシンポジウムになりますように、ご祈念を申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

何卒、よろしくお願いいたします。今日はおめでとうございます。

